

## 家庭訪問：保護者と児童生徒へのかかわり

不登校の回復に効果のあった措置として、小学校、中学校ともに「迎えに行く」や「家庭訪問」が多くあげられました。ちょっとしたきっかけから回復したり、粘り強い働きかけから少しずつ回復したりする事例が報告されています。家庭訪問にあたっては、児童生徒だけではなく、家庭にいる家族への配慮によって効果的な訪問になります。

【「指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒」に特に効果のあった学校の措置】

	小学校	中学校
不登校の問題について、研修会や事例研究会を通じて全教師の共通理解を図った。	28	40
全ての教師が当該児童生徒に触れ合いを多くするなどして学級全体で指導にあたった。	24	37
教育相談担当の教師が専門的に指導にあたった。	16	21
養護教諭が専門的に指導にあたった。	18	33
スクールカウンセラー、相談員等が専門的に相談にあたった。	19	63
友人関係を改善するための指導を行った。	20	46
教師との触れ合いを多くするなど、教師との関係を改善した。	22	44
授業方法の改善、個別の指導など授業が分かるようにする工夫を行った。	9	17
様々な活動の場面において本人が意欲をもって活動できる場を用意した。	30	46
保健室等特別の場所に登校させて指導にあたった。	27	78
<b>登校を促すため、電話をかけたり迎えに行くなどした。</b>	<b>38</b>	<b>74</b>
<b>家庭訪問を行い学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った。</b>	<b>38</b>	<b>71</b>
保護者の協力を求めて、家族関係や家庭生活の改善を図った。	29	62
教育相談センター等の相談機関と連携して指導にあたった。	17	27
病院等の医療機関と連携して指導にあたった。	12	17
その他	4	11

(平成 19 年度の問題行動等調査より)

### - 家庭訪問の仕方

家庭訪問は、教師が「いつでも待っている、受け入れるよ。」という姿勢をいかにうまく伝えるかがポイントになります。

欠席が 2 日以上続く時

家庭と連絡をとり、心配している旨を伝え、状況に応じて家庭訪問をします。

訪問する時間帯

朝、子どもが動けない時の家庭訪問はさらに子どもを追いつめます。子どもが落ち着く時間、状態を考慮しましょう。訪問時間は、短めがかまいません。(10 分程度)

本人と会えた時

家庭訪問と登校を結びつけません。子どもの苦戦(動けなくて困っているんだ)に寄り添う姿勢で子どもの関係づくりを心がけ、あせらずゆったりとした気分で接しましょう。本人の資源(興味、関心、得意なこと)を生かします。本人と会えない時は、本人へのメッセージを届けます。

「明日から学校においで」という教師の言葉

教師は、学校につなげたいと焦ります。「はい」と返事をした子どもが、次の日に学校に行けないとき、約束を守れなかった自分への自己評価が下がり、登校しにくくなります。子どもの思いを傾聴することが大切です。

(総合教育センター主任研修主事 木村史彦)

### ～ 家庭訪問を行う際のポイント～

#### 【保護者へのかかわり】

保護者は何を望んでいるのかを確認する。(学校、子どもにそれぞれ望んでいること)

一緒に取り組んでいきたい、復帰したときの受け入れ態勢(今後の見通しを含む)、待っている、という 3 つのメッセージを丁寧に伝える。児童生徒本人を抱えている保護者は大きな不安を抱えている事が多いので、学校との接点が見えにくいようにすることで保護者に余裕が生まれ、保護者と会うことだけでも好転することがある。

#### 【児童生徒へのかかわり】

上記に加え、会うか否か、会うとしたらどこで話をするのかを本人に決めてもらう(本人ではなく保護者が決めていくことがある)、前回会えたのだから今回も会えて当然だという意識は持たないようにする(意識が変わると自ずと声のかけ方が変わる)。

両者に共通するものとして、家庭訪問をしていることが保護者あるいは本人にとって苦痛になっていないかを常に気にかけてあげることが大切である。

(スクールカウンセラー 伊藤麻衣)

不適応対策に係る情報を発信していきます。不適応対策指導の参考に活用していただければ幸いです。

岩手県教育委員会事務局学校教育室生徒指導担当 (019-629-6145)

<http://www.pref.iwate.jp/list.rbz?nd=1813&ik=3&pnp=86&pnp=1779&pnp=1813>